

## 4 線刻状礫について

本遺跡内石器集中区縁付近で、表裏面に円形～楕円形状の線刻状のキズがある小円礫が出土した。出土当初は穿孔途中のものであることを考えたが、近隣の峠山ⅠA遺跡出土の装飾品や北海道柏台1遺跡出土の琥珀玉では穿孔痕が明瞭に観察されること、この線刻状礫が穿孔途中としても一個体しか確認されなかつことなどから考えると穿孔ではなく、むしろなんらかの意味を持つ線刻である可能性が高いと判断した。しかしながら、線刻幅が0.5mmと細く精巧であるが、それ以上のことを観察・分析できない状況にあっては、人工的か自然の作用によりできたのかは判断できない。今後の発掘例や新しい分析方法に期待したい。

## 引用・参考文献

- 阿部義平 1993 「上黒岩の線刻礫」『考古ジャーナル』358 pp.25-27
- 阿部祥人 1995 『お仲間林遺跡の研究』慶應義塾大学
- 大上和良他 1984 『北上川中流域、胆沢扇状地における火山灰層序』岩手大学工学部研究報告37 pp.69-81
- 菊池強一 1988 『上萩森遺跡調査報告書』埋蔵文化財調査報告書第19集 岩手県胆沢町教育委員会
- 菊池強一他 1996 『柏山館跡発掘調査報告書』岩文振報告書第242集（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 高橋義介他 1999 『峠山牧場Ⅰ遺跡A地区発掘調査調査報告書』岩文振報告書第291集（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 寺崎康史 「旧石器時代の垂飾と玉」『季刊考古学』 pp.47
- 長沼 孝 1993 「北海道の垂飾と玉」『考古ジャーナル』358 pp.9-14
- 深沢卓司他 2003 『蛭山Ⅱ遺跡』埋蔵文化財調査報告書第5集 岩手県沢内村教育委員会
- 松沢亜生 1993 「旧石器時代の線刻礫」『考古ジャーナル』358 pp.2-8